



カタカタ通信

第62号

「コウノトリの巣材」

2023年2月20日

巣材とは、文字通り巣を作る材料です。巣を作る場所に骨組みとして枝を使い、次に草などを加えて作ります。木の枝は太い枝から細い枝まで選んで使っていて、葉のついた枝を使うこともあります。種類によっては、殺菌作用のある木の葉もあるようです。

昨年、巣材として使用した草は、セイバンモロコシや背丈の高いイネ科の草です。不足分は、飼育ケージ内に生えたイネ科の草を切って与えていました。ただ、あまり乾燥していない草はすぐボロボロになり、巣台の下に落ちてしまいます。そこで今年は、天空の里近くの子ガヤを刈り取らずに残しておいてもらいました。冬になり子ガヤが乾燥したら刈り取り、1週間ほど干して保存します。子ガヤは、固すぎず弱すぎず鳥たちも好きです。

奥の巣台へ子ガヤを置いておくと、空が1月下旬ごろから手前の巣台へ、子ガヤを運ぶようになりました。花も今のところ手前の巣台で巣材をいじり始めています。



子ガヤ



刈り取って、干しています



干せたら保管

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
飼育担当：しみじい

